

この一点

— 伝えたい、
作品の力と魅力

- 第1回 2026年5月23日(土)
モーリス・センダック
『かいじゅうたちのいるところ』
湯浅良介
- 第2回 2026年6月20日(土)
郭熙《早春図》
加藤良造
- 第3回 2026年10月3日(土)
村上春樹『アフターダーク』
雨宮庸介
- 第4回 2027年1月23日(土)
ウンベルト・ボッチョーニ
《空間における連続性の唯一の形態》
中谷ミチコ
- 第5回 2027年3月20日(土)
ポール・セザンヌ《大きな花束》
日高理恵子

連続講座
「世界の美術館」
同日開催

なぜ、その作品が
その人にとって
「この一点」なのか。

時間 15時30分～16時40分

会場 多摩美術大学 八王子キャンパス

受講料 14000円(全5回)

※1回ごとの受講はできません。

定員 50名

締切 4月16日(木) 必着

お申し込み方法、お問い合わせ先は、右側をご覧ください。

この一点

— 伝えたい、
作品の力と魅力

有名な作品、聞いたこともない作品、
知る人ぞ知る作品…。

どのような作品が話されるのでしょうか。

その作品が、数多くある作品から
選ばれた理由があるはずです。

なぜ、その作品がその人にとって
「この一点」なのか、
語り手の眼差しから作品の魅力を
伝えていきます。

第1回 モーリス・センダック

『かいじゅうたちのいるところ』

— 小さな部屋から始まる広大な世界

小さな子ども部屋から大きな世界へ、空間と体験のスケールの
広がりを想像力豊かに描いた、20世紀を代表する絵本作家に
よる絵本。

湯浅良介 建築家 (本学准教授)

第2回 郭熙《早春図》

— 北宋山水画の魅力

中国山水画の基本となる「三遠法」で描かれた作品。西洋とは
異なる遠近感の表現方法を知ること、山水画を楽しく鑑賞で
きます。

加藤良造 画家 (本学教授)

第3回 村上春樹『アフターダーク』

— あっちとこっちについて

シンポジウム「春樹をめぐる冒険—世界は村上文学をどう読む
か」リチャード・パワーズ基調講演原稿を出発点に、あっちとこ
ちについて考えてみます。

雨宮庸介 美術家 (本学准教授)

第4回 ウンベルト・ボッチョーニ《空間に おける連続性の唯一の形態》

— 躍動の塊 彫刻の夢

イタリアで20セント硬貨の図案にもなった初期未来派の記念
碑的彫刻作品。1912年制作。走り行く兵か、ロボットか、はた
また魚人間か。

中谷ミチコ 彫刻家 (本学准教授)

第5回 ポール・セザンヌ《大きな花束》

— セザンヌはこの花を
どう見ていたのだろうか

セザンヌが求めた「感覚の実現」。セザンヌは対象をどのように
見て、感じていたのだろうか？そしてそれをどのように絵画で実
現していったのだろうか？

日高理恵子 画家 (本学教授)

◎講師の書き等は2026年1月1日現在。

開講日 5月23日(土)～3月20日(土)の全5回

時間 15時30分～16時40分

会場 多摩美術大学 八王子キャンパス

受講料 14,000円
※1回ごとの受講はできません。

定員 50名

締切 4月16日(木) 必着
※締め切り後も定員まで受け付けます。
お問い合わせください。

◎お申し込み方法、お問い合わせ先は、
右側をご覧ください。